

20世紀メンズファッションの革新Ⅱ

——イタリア未来派の画家たち——

神部 晴子*

An Innovation on Men's Fashion in the 20th Century—Part II

——Italian Futuristic Artists——

Haruko Kambe

要 旨 前報に引き続き未来派¹⁾とメンズファッションについて調べたものである。1910年代未来派画家バッラ Balla, G. は、彼の作品に見られるような斬新なデザインを取り入れたメンズファッションを提案した。未来派によるメンズファッションをめぐる改革はその後進められ、画家タイアート Thayaht, E. は1932年 *Manifesto per la trasformazione dell'abbigliamento maschile* (男性衣装変革宣言) を発表、美的でしかも便利な衣装を提案した。続いて画家クラリー Crali, T. は、鮮やかな色の特徴とするスーツを考案した。また画家シーテ Site, D. M. やドットーリ Dottori, G. により前衛的なメンズファッションも提案された。さらにマリネッティらによって1933年 *Il manifesto futurista del cappello italiano* (イタリア帽子未来派宣言)、画家ディ・ボッソ Di Bosso らにより *Manifesto futurista sulla cravatta italiana* (イタリアネクタイ未来派宣言) が発表された。本報では1930年代のファシスト的な思想を持った未来派画家によるメンズファッションの発案とその内容について調べた。資料には前報と同様『未来派とファッション』(Crispolti, E. *IL FUTURISMO E LA MODA*)²⁾を主に使用した。

I はじめに

前報では、未来派画家ジャコモ・バッラ Giacomo BALLA (1871-1958) が創作した未来派スーツと二つの衣装宣言1914年5月 *LE VETEMENT MASCULIN FUTURISTE MANIFESTE* (未来派男性衣装宣言)、同年9月 *IL VESTITO ANTINEUTRALE MANIFESTO FUTURISTA* (未来派反中立衣装宣言)³⁾に書かれた内容とその意味主張について未来派との関連において調べた。その中でバッラは19世紀から続いていたメンズスーツの伝統的デザインであった控えめな装飾に地味な色というスタイルに彼自身の絵画作品(図1)に見

られるようなダイナミックで非対称なラインを強調し、大胆な柄や鮮やかな色を取り入れそれまでの固定化したデザインに改革を試みた。また、ボタンを減らしたりすることで実用面においても留意した。それらは現在の我々から見ても斬新なアイデアであり、ダイナミックなデザイン、明るい色彩、非対称なラインといった非常に画家的な発想で考案されている(図2)。

前報では触れることが出来なかったが、バッラがデザインしたものは、スーツだけでなくシャツ、ネクタイ、ベスト、帽子、靴、手袋といった装飾品にまで至った。未来派衣装を企画した1912年頃、彼のデザインしたスーツには三角形のネクタイが既に見られた。三角形は1912年から14年にかけて彼の絵画作品に登場するモチーフで、未来派が重要視する運動を意味するものであった。そして1914年に描かれた夜用衣装

* 本学講師 西洋服装史

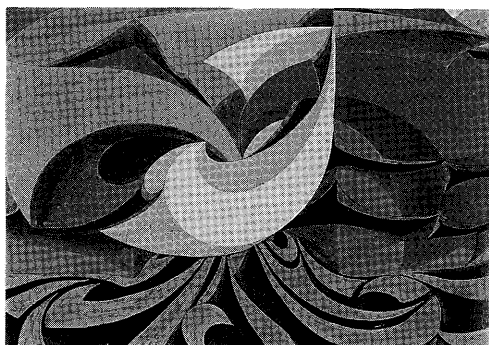


図1 バッラ「イタリア万歳」1915年

のデッサンには曲線状の赤いネクタイが見られる(図2)。伝統的に長く垂らした形をダイナミックに造形したものや、柄や色彩にダイナミックなヴァリエーションを持たせたもの、また紙を用いて彩色するものなどもあった(写真3)。さらに、未来派の宣伝活動の折に、電気ランプを用いたネクタイを着用した記録もある。

1920年代初頭にデザインされたベストは、未来派の煽動の印として、共通の衣装の下に着用された。印象的な多色が特徴で、幾何学的なラインの中に色彩のダイナミックさが感じられる



図2 バッラ スーツのデザイン 1914年

(写真4)。

靴は2色使いのダイナミックな曲線の柄がついたデッサンが既に1912年に見られ、1920年代に実際に試作され使用された(写真5)。

これらの装飾品は、一部を除き実際に着用されることはほとんどなく、1910年代は主に未来派運動の宣伝のために用いられ、未来派グルー

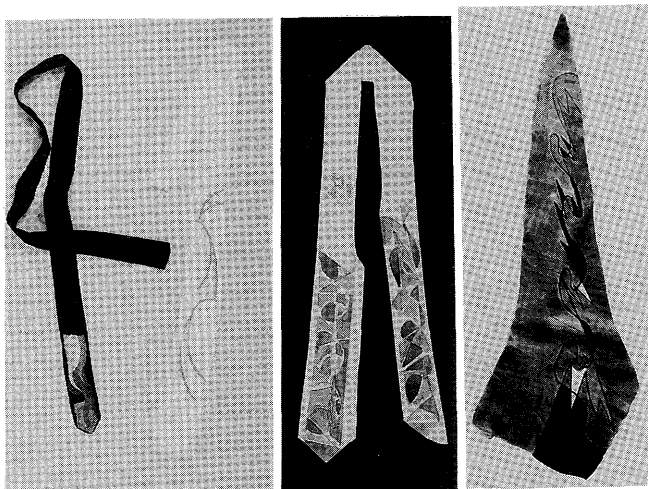


写真3 左 バッラ 刺繍入りネクタイ 1918年

中央 バッラ 紙に水彩画でデザインしたネクタイ 1916年

右 バッラ 変形ネクタイ

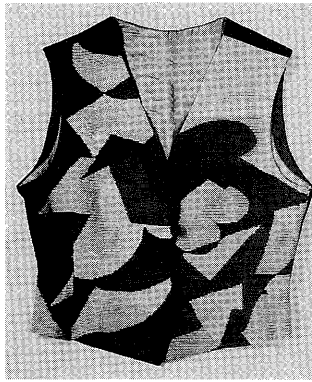


写真4 バッラ 未来派ベスト
1924年



写真5 バッラ 未来派靴 1916年



写真6 未来派衣装を着用したバッラ
1927年

ブ内では1920年代を通じ着用されていた(写真6)。

バッラは1920年頃から室内装飾に関心を払い始め、1928年頃には未来派の主な活動からは遠ざかっている。

他方、芸術運動としての未来派の活動的な時期は第一次世界大戦の始まりと共に終わりを告げる。しかし、その頃までに第二の未来主義が動き始めていた。これはマリネッティが自分の運動を生かし続けるために行った試みで、第二次世界大戦まで続いた。第二未来主義の特質は、マリネッティが「新感覚」と呼んだラジオや飛行機というような現代的な現象から起こる感覚を促進するといった文化的革新を求めたものであった。そして、1929年未来主義航空画家宣言⁴⁾がマリネッティ、バッラら9人の未来主義者によって署名された。それ以降、航空絵画や航空彫刻が、未来主義芸術の新しい印となった。第二世代にはバッラの他に、新たに画家、彫刻家、建築家加わりローマ、ミラノ、トリノなどで活動が行われた。そして、メンズファッションに関するプロジェクトについても引き続き進められていった。

本報では、1930年代に提案された革新的メンズファッションについて、それぞれの画家が提案したデザインやその意味主張について調べた。

II MANIFESTO PER LA TRANSFORMAZIONE DELL'ABBIGLIAMENTO MASCHILE

1929年に未来派グループに加わった画家・彫刻家エルネスト・タイアート Ernesto THAYAHT (1893-1959) は1932年9月20日、兄のルッジェーロ Ruggeroと共に MANIFESTO PER LA TRANSFORMAZIONE DELL'ABBIGLIAMENTO MASCHILE (男性衣装変革宣言) を発表した(図7)。最新の男性衣装一式を示したその宣言は、過去主義的なものを否定した。そして、あらゆる着膨れや動作を妨げるような圧迫から開放し、日常生活におけるどんな状況においても着用されるべきものを提案した。それは経済的で衛生的、しかも美的なものであった。考案された衣装にはそれぞれ名称(時折用いられていた未来派の自由語または、タイアートの造語と思われる)が付けられている。

バッラの宣言の内容と比較すると、圧迫されるようなものや不必要なものを否定している点では同じであるが、うまく着こなすためには、バッラが否定したカラーやカフスもある程度必要であると述べる。そして、衛生的で動きやす

しいネーミングが付けられ、すでにある衣装を機会に応じて今日の生活に合わせるよう変革すべきである。

8) 1918年フィレンツェでつなぎ服を発表した。やがてはセンセーショナルな解説と共に新しいデザインの一連を発表するであろう。以下のように名称をつけた。

1) イルトラコ IL TORACO。袖なしシャツ。襟ぐりが大きくボタン無し、まっすぐのライン。綿、毛、絹地。冬はシャツとして、夏は水泳、アスレチック用として白か家庭で洗濯可能な彩色。

2) イルカミット IL CAMITTO。障害にならないシャツ。ポケットなし。まっすぐなライン。綿、麻の伸縮性のある生地。ボタンは2つのみ。白か鮮やかな彩色。洗濯可能。

3) イルコルサンテ IL CORSANTE。胸カバー。五分袖。2つのポケット。ボタンは1つ。毛、絹、革、ゴム、季節に応じた彩色。

4) イフェモラーリ I FEMORALI。大腿部カバー。ゆったりして密着しないもの。膝下止まり、4つのポケット、3つのボタン。毛、木綿、麻、絹で光沢のない柔らかい素材、強い色彩、無地か幾何学模様。

5) イコンチ I CONICI。脚カバー。まっすぐのラインで円錐。3つのボタン、2つのポケット。光沢のある生地。夏は大変軽いもので、冷たい色彩。冬は毛が蜜で、暖かい色調。

6) リアンカリ GRI ANCALI。脚カバー。スポーティなライン、ローネック、2つのボタン。生き生きとした色彩。木綿。海岸や水泳、トレーニング用。

7) ラトゥヴァリア LA TUBARIA。脚カバー。たっぷりして足首部分が閉じている。防水地、抵抗力のある単一の縫い目。2つのポケット。

8) カルツァーリ エカルツィッリ CALZARI E CALZILLI。様々な裁断の脚カバー。ニット地、ガーターなしで着用。白、安定した円錐、大腿部までのもの。

9) アエロスカルパ AEROSCARPA。軽い靴。伸縮性、脚を空気にさらすような構成、明るい色彩。夏には熱を通さないもの。

10) ラスカーファ LA SCAFA。頑丈で光沢のある靴。革かゴムで防水性。真鍮とアルミニウム。

11) ラスピオーヴァ LA SPIOVA。冬用の頭巾。自分で広げられる傘付き。光沢があり、彩色され防水性の生地。

12) ラゾレ L'ASOLE: 夏用の軽い帽子。可動のレンズフード付き。紙、布、藁、アルミニウム、セルロイド。白、明るい緑、青。

13) イルパラヴィスタ IL PARAVISTA。ラゾレと用いる庇。通りや空の反射から目を保護。

14) イルラディオテルフォ IL RADIOTELFO。旅行用の軽いカスケット。ラジオ受信機と可動性イヤホン付き。

15) ラルーカ LA LUCA。冬のマント。膝までの長さ。袖。ポケット。ボタンはなし。2つの縫い目。防水性のあるリバーシブルの生地。柔らかくて軽い濃く強い色彩。

16) イルトリフォルメ IL TRIFERMO。胸カバー。手首までの管状の袖つけ。折り返しのある襟。3つのボタン。内ポケット。ウエスト部分で締め、編み目の詰まった生地。混合色。

我々の全てのデザインは、現行の法により制作と販売に関する独占権を保証されるよう登録及び保護される。イタリアの既製服会社により、この我々が率先する重要性を包含され、未来派の統合衣装を大規模に生産し発表

するという理性的で実的な参入を期待する。

タイアート
ルッジェーロ
1932年9月20日

タイアートは未来派グループに加わる以前の1920年代、デザイナー、マドレーヌ・ヴィオネのアトリエでデザインに携わっていたことで知られる。しかし、それよりも前に男性衣装に関心を持っていた。彼は1918年に「トゥータ TUTA」と呼ばれる上着とズボンが一体化した「つなぎ服」を考案している。タイアートは後の回想で、「活気をもたらす色彩、簡単に身につけられ、しかも身につけると他の人よりも際立って見えるものを考えた⁵⁾。」と述べているように、着易く、しかも見た目も美しいそのシンプルな服は、タイアートが考案した経済的な男性服として言葉の上でも知られた。TUTAとはタイアートの造語で、今でも作業着、工員用の衣服という意味を持つ。タイアートは自らその衣装を着用した(写真8)。

この服が誕生した背景には、戦後間もない貧困の中で高価な衣服にいかに対応するか、それ



写真8 TUTAを着たタイアート 1919年

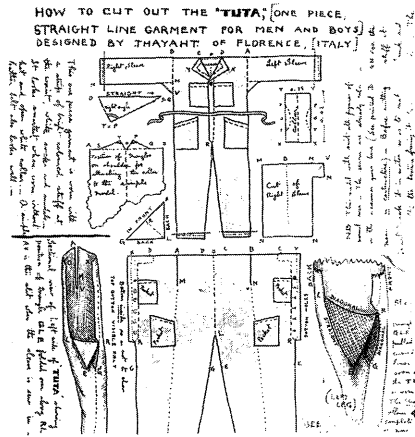


図9 TUTAのリーフレット 1919年

と同時に実用的でしかも新鮮で見栄えも良く、仕立て易いという点で、それまでの男性服にみる特有の憂鬱さに対する否定と結びついた。一枚の身頃で、低い前開きの衿が付く。銅部には簡単なベルトを配する。無地で軽い生地。シャツはなく、足元はサンダル履きである。前後に四つの大きく実用的なポケットが付いている。一枚の身頃と言うのは、未来派が実用面において提起したことであり、バッラも1914年の衣装宣言の中で、デッサンとして一枚仕立てを提案している。

翌年の1919年、タイアートはTUTAの裁断方法を示すリーフレットを発行する(図9)。そこには次のような説明が見られる。

「TUTAの生地は4、5メートル幅70センチ。ともかく安価であること。TUTAは一枚仕立てで最小の縫製。仕立て代は安価であること。TUTAのボタンは7つのみで簡単なベルトで着こなす。それにより時間が節約される。TUTAを何週間か着ることによって最高に便利であると感じるであろう。その幸福感と自由に動けることでそれを身につけた人はエネルギーが節約されたと感じ、若返った気持ちになれる⁶⁾。」

つなぎ服はシンプルさと基本的な作りを極めたもので、男性だけでなく、女性にも着用可能であった。

1926年にタイアートは同様のラインのつなぎ服と上着を考案する(写真10)。前回のつなぎ服を連想させるシンプルな男性服であるがそこにはネクタイが添えられている。

その後1928年に、ファシストグループにより帽子デザイナーとして選出され、翌29年にはファシスト連の公式雑誌『Moda』にデザインを掲載した。タイアートが未来派に加わったのはこの年である。そして1930年のある雑誌の中で、「着こなしの美学。太陽のモード。未来派のモード。夏のモードは太陽のモードである。この太陽のモードは未来派的モード、すなわち生き生きとした色彩、今よりももっとシンプルで実用的な着こなしを促進するであろう。灰色で悲しい空の下で作られた服を拒絶する。灰色や茶色といった色を元にしてほこりや汚れを隠すに相応しい色はある意味では実用的ではあるが、基本的に輝きのない不健康で若々しくない。我々の衣装は、暗くくすんだ色彩よりはっきりした明るい色合いと良く調和するはずである。だから、新しいスタイルを創り出す勇氣を持ち、その素晴らしいスタイルが快活さを導き、最高の生気の印である。はびこる憂鬱さや息苦しさから全世界に若々しさを解き放ち、男性と女性の服をシンプルに、より軽く、より便利に、より健康的にする勇氣を持つことが必要だ。新イタリアモードは、未来派モード。シンプル、冒険的、色彩のモード。イタリア人気質のような太陽のモード、光を放ち、未来に向か

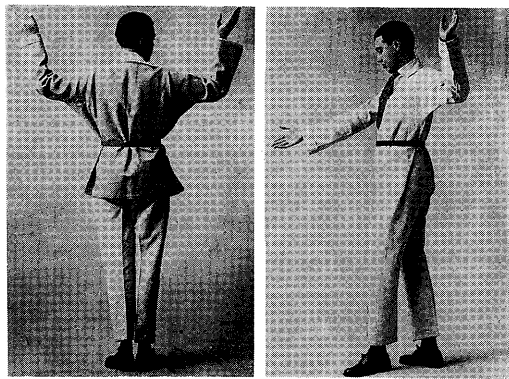


写真10 タイアートのつなぎ服と上着 1926年

って未来派的に伸び行く。より色彩を、より明るさ伸びやかさを、よりダイナミックに。憂鬱さや静止度を減らし、慎重な威厳や堅苦しさもなくす。現代衣装の問題である懐古的悲観主義を減らすのだ⁷⁾。」と述べている。その後1932年に先の宣言の発行となった。そして彼はパリやロンドンのデザインばかりを見る業界の外国品崇拜を批判し、ローマやフィレンツェで生産されるファッションの重要性を強調した。そして、前衛的な芸術家に未来派的なモードを負うよう求め、企業家や仕立て屋には助力を求めた。

タイアートは1932年の宣言以外にメンズファッションあるいはつなぎ服に関するエピソードはない。

III クラーリ、シーテ、ドットーリの提案

1 クラーリのメンズスーツ

画家、彫刻家トゥッリオ・クラーリ Tullio CRALI (1910-?) は、1929年に未来派に加わり、1932年以降「未来主義航空画家宣言」のグループ展に毎回参加し、航空絵画における代表作家の一人となった(図11左)。そして衣装にも熱心に関心を寄せた。

1932年の彼の男性衣装の習作やデッサンには、非対称なラインを用いたデザインと鮮やかな色彩を特徴とするスーツが描かれている(図12)。短い上着には衿がなく、左側のみに異なる色の見返しが付けられた。袖の色だけ異なる上着、また別の色のズボンを合わせる上着もあった。上着のボタンは1つのみであった。カフスボタンも1つで、開襟のシャツを着ている。大変シンプルである。彼は自分用として数着試作し、実際に着用していた。実用的でしかもエレガンスな印象を受ける(写真13)。

彼はその後、1950年代にも特徴ある衣装を着用していた記録がある。1951年、白、黒、黄、オレンジと彩色に富んでいたボタンのない夏用の上着、1952年夏、柔らかい素材で出来た朱色

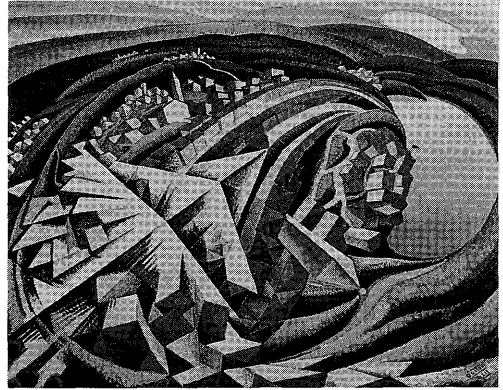
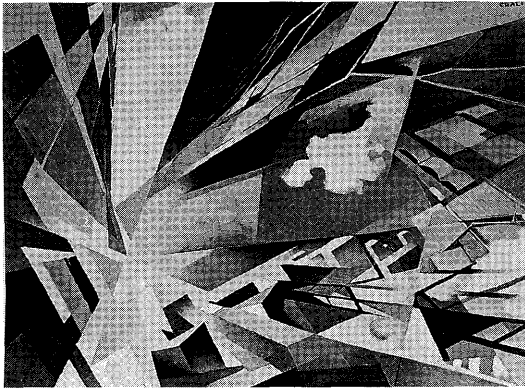


図11 左 クラーリ「空港上の降下」1939年
右 ドットーリ「市街上空300 km で」1934年

の上着、秋用には青色のラッシャで出来た水夫風の着、冬用には黒のラッシャ製ハーフコートを着ていた⁸⁾。

2 シーテの考案

画家ミーノ・デッレ・シーテ Mino Delle SITE も、男性用女性用ともに衣装の革新に興味を示した。彼は1932年に「熱のつなぎ服 *tuta termica maschile*」(図14)を考案した。これは肉体の呼吸に合わせ、肉体の自然な熱を保ち、外部からの暑さから防御する生理学的な素材で作成された。2種類の衣類でオールシーズン着用できる。タイアートのものとは違った

つなぎ服の考案であるが、ここでも一枚仕立ての重要性は、未来派が以前から提起している部分である。高い衿、左に何でも入る弾薬筒と思われるバックの付いた帯飾りが肩についていた。

1933年には上着も考案され、丈長で衿はなく留め金が1つの大変シンプルなものである(図15)。その下に着るシャツは、木綿か絹で好みに合わせて様々な色があり、明らかな非対称の衿がついていた。彼がデザインしたシャツは衿に特徴があり、この他にも先を尖らせたり、直角に45度に角を丸くしたり長くしたりするシャ

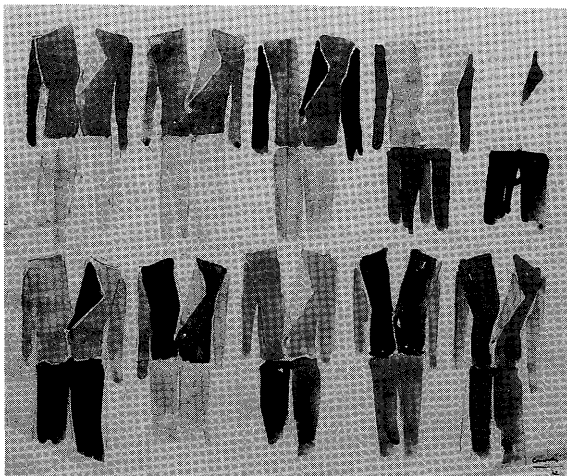


図12 クラーリ スーツの習作 1932年



写真13 クラーリ 1933年



BANDOLIERA
PORTATUTTO
PER UOMO

図14 シーテ 熱のつ
なぎ服のデッサン
1932年



GIACCA RAZIONALE
CON COLLETTO
ASIMMETRICO
E CRAVATTA METALLICA

図15 シーテ 上着と
ネクタイのデッサン
1933年

ツが考案された。新奇性に富んでしかもダイナミックで、遊び心が見られる。クラークが丸くダイナミックであるのに対し、彼は直線的といえる。ネクタイは帯状の金属性や様々な金属が付けられた。

彼の経歴やその他の活動に関しては、現在のところ明確になっていないため、ここでは触れていない。

3 ドットーリの制服⁹⁾

画家ジェラルド・ドットーリ Gerardo DOTTORI (1884-1977) は、1913年には未来派に加わった。とりわけバッラに接近し、1926年に降未来派グループとともに数多くの展覧会に参加した。1929年「未来主義航空画家宣言宣言」に署名し、クラークと同様、航空絵画の代表作

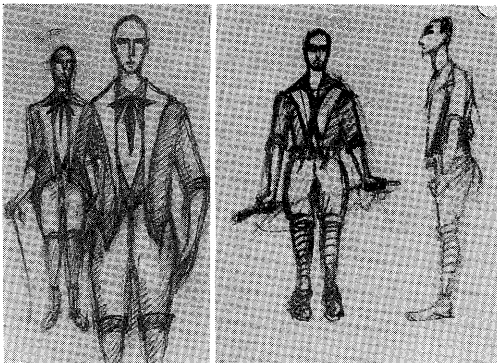


図16 ドットーリ 制服のデッサン

家となった(図11右)。彼の絵画作品の特徴は激しい渦巻きがダイナミックな効果を持つ。

彼は1930年代にファシスト時代の男性の着こなしについての問題に取り組みデザインしている。前衛的な準軍隊の制服であるが、スポーツーにも見える。未来派の衣装として実用性を求めたものであった。意図的に伝統的な形式や類型の破壊、ダイナミックなフォルムが示されている(図16)。

IV IL MANIFESTO FUTURISTA DEL CAPPELO ITALIANO

1933年3月 IL MANIFESTO FUTURISTA DEL CAPPELO ITALIANO (イタリア帽子未来派宣言)(図17)が発表された。これは未来派運動本部発行の雑誌『Futurismo』に未来派帽子コンクールを開催することが掲載された折のことである。コンクールにはイタリアの多くの芸術家を巻き込み、製造者には新作を生産するよう促がした。審査委員会はマリネッティが統括した。宣言ではマリネッティのほか3人の未来主義者が名前を連ねていた。この時、バッラも「防毒ガスの帽子」を提案、実際に帽子メーカー2社が生産している¹⁰⁾。

宣言は1914年のバッラの宣言に言及したもので、男性に美的な帽子の着用を勧めたものである。それは、中間色や黒ではなく色づけされ、しかも機能性も重要視された。20種類もの帽子を示し、素材も様々なものを利用している。帽子の問題については、バッラの衣装宣言の末尾でも触れられていたように、おそらく未来派が初期の頃からあたためていた構想の中に含まれていたと考えられる。また、帽子は服装全体の中で目につきやすい部分であること、そして変化させやすいということも考えられる。

宣言の中で提案された帽子の種類が実際に試作されたのか、またデッサンが残っているのか今のところ資料が見つからない。

「イタリア帽子未来派宣言」

待望のイタリア男性衣装革新は1914年9月11日に未来派ジャコモ・バッラに署名された。

その衣装は、ダイナミック、白、赤、緑で構成され、未来派自由語詩人フランチェスコ・カンジェロによってデモストレーションの際に着用された。マリネッティに率いられたローマの未来派たちがローマ大学において中立的な教授陣に対抗し、広場で暴力闘争を展開、逮捕者を出した時である。

(1914年12月11, 12日)

再び我々未来派が衣装革新において首位を取ろう。勝利は我々の立証された創造の能力によって確固たるものとなる。今日、特に帽子に関して発表する。

イタリアの帽子は長い間世界で絶対的な首位を保っていた。最近では外国崇拜や非衛生的な悪習のため、多くのイタリアの若者はアメリカやドイツに習い帽子をかぶらない。帽子の衰退は男性の美観を損なう。輪郭は失われ、愚かしく長髪が取って変わり、ほどほどに活発に、ほどほどに男らしく、ほどほどに知的に。

ファッションやローマ進軍において、古代ローマ人より勇壮に秀でた戦士達は、何世紀も経って風土も変わった文化スタイルを受け入れる必要はない。ロサンゼルスで、スポーティーなイタリアの成功者はくだらない歴史のセンチメンタリズムに由来する異国の趣向なぞに打ち勝たなくてはならない。だから、美的な帽子の必要性を認めるのである。

- 1 黒や中立的色彩の使用を非難する。雨、雪、霧の都市の街路に泥という不動のメラノコリーを与え、茶色の流れが巨大な幹や石、亀を落下させる。
- 2 過去主義のありとあらゆる帽子類を非難する。美的にも実用的にも速度的にも我々の機会文明に調和しない。例えばうぬぼシルクハットは、早足を禁じ、葬式を近づける。8月、イタリアの広場はまばゆい光と

炎の沈黙が満ちる。通行人の黒やグレーの帽子は哀しく排泄物のように浮かぶ。色を！ イタリアの太陽と競う色が必要だ。

- 3 帽子の未来派的機能を提案しよう。帽子は今日まで少ししか、あるいは全く男性に有益でなかったから今後は帽子を輝かせ、示し、大事にし、守り、速度を与え、元気づけるといったことがなされなくてはならない。

美的、衛生的、機能的革新を通して創出する帽子は、ムッソリーニの新たな環境に必須な多様性、飛躍性、力動性、叙情性を強調し、イタリア男性の理想的なラインに帰依し完成し直す。その帽子の類型は、

- 1 速い帽子（日常的な使用）
- 2 夜の帽子（パーティー用）
- 3 華美な帽子（礼装用）
- 4 航空—スポーティーな帽子
- 5 太陽の帽子
- 6 雨の帽子
- 7 高山の帽子
- 8 海の帽子
- 9 防衛の帽子
- 10 詩の帽子
- 11 宣伝の帽子
- 12 同時の帽子
- 13 造形の帽子
- 14 触感の帽子
- 15 輝く—信号の帽子
- 16 音響の帽子
- 17 無線電話の帽子
- 18 治療の帽子（松やに、メントール、自然波の円形モデレーター）
- 19 自動合図の帽子（赤外線システム）
- 20 この宣言をこきおろすばかりのための変わった帽子

フェルト、ビロード、藁、コルク、軽金属、ガラス、セルロイド、ブロック、毛皮、スポンジ、繊維などを単独であるいは組み合わせさせて制作される。

これらの帽子の彩色は、光あふれる広場に

IL MANIFESTO FUTURISTA DEL CAPPELLO ITALIANO

La desiderata e indispensabile rivoluzione dell'abbigliamento maschile italiano fu iniziata l'11 settembre 1914 col celebre manifesto firmato dal grande pittore futurista Giacomo Balla: « Il vestito antineutrale ».

Questo vestito sintetico, dinamico, agilitante con parti bianche parti rosse e parti verdi fu indovinato dal pioniere futurista Francesco Cangiullo nelle dimostrazioni paratattiche seguite da violente lottaglie di piazza e relativi arresti, che i futuristi romani, guidati da Marinetti, scatenarono contro i professori neutralisti nell'università di Roma (11-12 dicembre 1914).

Riprendiamo la tema della rivoluzione dell'abbigliamento nei futuristi, autori di questa nostra vittoria garantita dall'ormai provata potenza creatrice della nostra razza. Mentre prepariamo il manifesto integrale che sarà firmato da futuristi specialmente italiani, lanciamo oggi quello particolare del cappello italiano.

Il primo mondiale del cappello italiano è stato per molto tempo assoluto. Inconsciamente, per ostilità e per mai nota ignoranza, molti giovani italiani adottarono l'uso americano e teutonico della testa nuda. La decadenza del cappello, che un impero il mercato e il vizio perfezionamento, danneggiò l'estetica nazionale amputando la dogma, sostituito alla parte avvia la cretinismo selvaggia della sessera più o meno aggressive, più o meno virili e più o meno dette.

I combattenti che superarono in eroismo i romani e Vittorio Veneto, nelle piazze equivoche d'Italia e nella Marcia su Roma, non debbono piangere la foggia culturale a distanza di secoli e in un clima certamente mutato. I giovani spiritosi italiani vincitori a Los Angeles debbono ancora vivere anche questo vanto bellico che deriva da un sentimentalismo storico-laborale.

Affermando quindi la necessità estetica del cappello:

1. Condanniamo l'uso nordico del nero e delle tinte neutre che danno alle strade delle città di pioggia nere nuda; la fangosa malinconia ferma e precipitante di generali vecchi pietrosi e tartarughe travolti da un torrente maremo.

2. Condanniamo i vari copricapi passati che stonano con l'estetica la praticità e la velocità della nostra grande civiltà meccanica, come ad esempio il comunissimo cilindro che vive il pensiero di casa e collantia i fessure.

D'agosto, nelle piazze italiane allagate di abbagliante luce e torrido silenzio, il cappello nero è grigio del passante galleggiante tristi come sterchi.

Colori Oscuri colore per gongolare con il sole d'Italia.

3. Proporziamo la funzionalità futurista del cappello che fino ad oggi servì poco o niente all'uomo e che d'ora innanzi dovrà illuminarlo, segnalarlo, esibirlo, difenderlo, velocizzarlo, rallegrarlo, ecc.

Converrà i seguenti tipi di cappello: 1. Capote mediante perfezionamenti estetici igienici e funzionali servano, rispettivamente, a correggere la linea ideale maschile italiana con accentuazione di varietà, brezza, slancio dinamico, lirici dovuti alla nuova atmosfera automobilistica.

1. Cappello veloce. (Per l'uso quotidiano); 2. Cappello notturno. (Per serata); 3. Cappello aereo. (Per parata); 4. Cappello sportivo; 5. Cappello solare; 6. Cappello piovoso; 7. Cappello albergo; 8. Cappello marino; 9. Cappello difensivo; 10. Cappello poetico; 11. Cappello pubblicitario; 12. Cappello umanitario; 13. Cappello plastico; 14. Cappello tattico; 15. Cappello luminoso; 16. Cappello galattico; 17. Cappello radiotelegrafico; 18. Cappello terapeutico (resina, canfora, mentolo, creosolo, maceratore di umide comiche); 19. Cappello autonotante (meccanico sistema dei raggi infrarossi); 20. Cappello specializzato per i fuochi che criticarono questo manifesto.

Saranno confezionati in feltro, velluto, paglia, setolero, metalli leggeri, vetro, celluloidi, agglomerati, pelle, spugna, fibra, tali non, ecc., separati o combinati.

La policromia di questi cappelli darà alle piazze solari il sapore di immenso fruttiere e il lusso di immenso gioielliere. Le strade notturne saranno profumate e melancoliche luminarie coccinelle tali da eccitare definitivamente la veduta notturna del chiaro di luna.

Shockerà così l'ideale cappello opera d'arte italiana, insieme allegante e poligrafico, che illustrerà e moltiplicherà la bellezza della razza imperiosa di nuovo nel mondo una delle più importanti industrie nazionali.

Sarà così la nostra bella pensata è la serie dei nostri sogni pueri, si vengono pure a visitare e capo scoperto se loro piace, noi li riverremo con l'attuale gentilezza, ma valendoci sulla testa il nuovo cappello italiano per dimostrare loro che nulla esiste più di uomini fra la velocità dei vetri e di uomini fa e la fiera originalità inventiva dei fuochi futuristi d'oggi.

F. T. MARINETTI
FRANCESCO MONARCHI
ENRICO FRAMPOLINI
MINO SOMENZI

図17 IL MANIFESTO FUTURISTA DEL CAPPELO ITALIANO 1933年

大きな果物屋の香りと大きな宝石店の奢侈を与える。夜の道は、香りに満ち、うっとりするほど光り、ついには殺したいほどの月の輝くこのノスタルジーに由来する。

このように、イタリア芸術作品としての理想の帽子は始まるのである。活気があると共に、大変実用的で帽子の美を増し、イタリアは再び世界で最も重要な産業国家の一つになる。我々の美しい半島は、半分は各国からの旅行者で、彼らが自分たちの好みで無帽でやって来るが、イタリアの新しい帽子を被りいづも親切に彼らを受け入れよう。

マリネッティ

モナルキ

プランポリーニ

ソメンツィ

V MANIFESTO FUTURISTA SULLA CRAVATTA ITALIANA

1933年3月27日 MANIFESTO FUTURISTA SULLA CRAVATTA ITALIANA (イタリアネクタイ未来派宣言) (図18) がヴェローナの未来派本部より発表された。航空画家、航空彫刻家レナート・ディ・ボッソ Renato Di BOSSO, 詩人イグナチオ・スクルト Ignazio SCURTO の共同署名による。これはマリネッティによる「イタリア未来派帽子宣言」の煽動を受け発行された。宣言の中では、布製の結び目を持つネクタイや蝶ネクタイ、そしてネクタイピンを廃止し、未来派ネクタイの着用を勧めた。そして人は身につけたネクタイを通して表されると強調する。具体的には軽くて光沢があり、アンチ(反)ネクタイと呼ばれる金属性であった(写真19)。理想的な金属とサイズも示されている。

ディ・ボッソとクルストは、数カ所の都市で反ネクタイを実際に着用しデモストレーションを行った¹¹⁾。

彼らに関する経歴やその他の活動については、今のところはっきりわかっていない。

「イタリアネクタイ未来派宣言」

Artisti Italiani

Moda Italiana

Industria Italiana

Prodotto Italianissimo

Cioè Futurista

イタリアの芸術家

イタリアのモード

イタリアの産業

イタリア的製品

つまり未来派

L'industria futurista veronese

dendo luminoso ed imitabile

esempio di patrittico

artistico, estetico e commercial

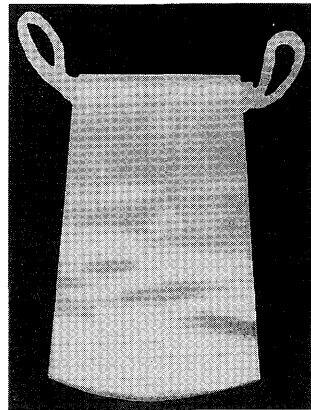


写真19 ディ・ボッソ アンチネクタイ 銅製 1933年

図18 MANIFESTO FUTURISTA SULLA CRAVATTA ITALIANA 1933年

prima al lancio in tutta Italia dell' anticravatta d'arminio creazione del futuristi Di Bosso e Scurto

ヴェローナの未来派企業 芸術的、美的、商業的に 愛国心の明るく模倣すべき手本 まずはアルミニウムのアンチネクタイを 全イタリアに発表する ディ・ボッソとスクルト 未来派創造物

画家、彫刻家レナート・ディ・ボッソと詩人、喜劇脚本家イグナチオ・スクルトは、画家アルビーノ・シヴィエロと詩人クイリーノ・サケッティの協力を得て、抵抗力、実用性、光沢を備えたアルミニウム製アンチネクタイのデモンストレーションを多くの都市で行った。

イタリアモードにおいて男性衣装を革新することは、田舎者の外国崇拜や反イタリアのガリアアングロサクソン至上主義に優先して、過去現在未来のどの国民よりも、より天才的、より直感的に優れ、より速さを持つ我々民族の改革者の誇りを意味する。天才マリネッティは、またもや一様でモノトーンの帽子の有り方を批判して、改革のシグナルを発した。

ディ・ボッソとスクルトは若く有能な未来派たちと協力して、イタリアの使徒を締め殺したローブを思い出すような黒、グレー、多色のネクタイの下げ結びに対抗して、挑戦的な必須の改革運動を布告する。

いかなる男性も首に哀惜の黒や不名誉な色彩を吊るし、社会の卑屈を示すラシャや絹を下げています。

イタリア人よ、下げ結びのネクタイ、蝶ネクタイ、ネクタイピン、反速度、反衛生、反楽観主義のガラクタを廃止せよ！それらを君達の子供に送り給え。猫や犬のひもにするだろう。それが物笑いにならない唯一の使用法だ！

外国のモードから、ネクタイ屋の日常的な不幸から自由になれ！

人格は身につけたネクタイを通して表れる。今日モーター、力動、同時性という時代

に、人々は結び目や布の切れ端から表されるべきでなく、金属の光沢と純粹さから表れる。だから全てのイタリア人男性に、俗なネクタイを拒絶し、ヴェローナにおいて1933年3月27日に我々によって発表される未来派ネクタイの使用を勧める。未来派ネクタイは、軽くて光沢があり、持ちの良い金属製アンチネクタイで、それを身に付けた人に柔軟性、強さ、知性、節度、有効な発案、改革とイタリアの精神が示される。

我々の理想とするアンチネクタイは以下のようであるべきだ。

- 水平にうねりのあるブリキ
- 反伝統的な装飾モチーフのある無光沢のアルミニウム
- 現代的な彫りの光沢アルミニウム
- 光沢と無光沢のグラデーションのあるアルミニウム
- 貴重な金属
- 真鍮
- 銅

使用金属は、厚さ2から4センチメートル。だから重さはなく、結び目は完全に廃止される。長さは数センチメートル。

ヴェローナで開催されたデモンストラーションで、我々の発明は庶民にもインテリにも熱狂的に迎えられ、他の都市から見本や忠告の要望があり、アンチネクタイは間もなく楽観主義、エレガンス、実用、光沢、抵抗、ラシヤや絹となるであろう。

アンチネクタイは軽く柔軟な服飾品で、豊かなイタリアの太陽と青空に反射して、我々男性の胸から周知の憂愁と悲観を取り去る。

外交官や怠惰な公証人風にネクタイをしている若者や青年たちは滑稽である。母親はあなたの息子達に未来派の光輝くアンチネクタイを送ってください。楽観的で、光りと飛行の欲望をかきたてる。

アンチネクタイで全ての男性も、全ての若者もイタリア人が最大の権利を有する航空的な特徴を帯びる。

中立で反戦的な滑稽なぼろきれより、日向で飛行機の翼に装飾されるほうが好ましい。

未来派達よ、下げ結びをボイコットせよ！

イタリア人よ、これまでの首吊りではなく、男らしく着こなし給え！

レナート・ディ・ボッソ
イグナチオ・スクルト

ヴェローナ
ヴェローナ未来派運動部
1933年3月

Ⅵ お わ り に

未来主義は第1次世界大戦後、特に未来派宣言を発表した当初から中心的担い手であったボッチョーニ Umberto BOCCIONI (1882-1916) の死によって一つの幕を閉じた。そして多くの芸術家たちが未来主義から離れ始めた。マリネッティは、バッラを引き込み若い芸術家の間で未来主義を続けようとする。そして新たな画家、建築家を加えていわゆる第二未来派が結成された。

未来派によるメンズファッションに関する改革の試みは、1910年代のバッラの宣言以降も進められていった。彼の着想はその後の未来派画家に影響を与えた。タイアートのつなぎ服の提案、そして宣言の内容においてもバッラの影響が見られる。そして1930年代に発表されたクラリーによる鮮やかな色や左右非対称のメンズスーツのデザインからもバッラの影響は汲み取れる。

一方で未来派は、ファシズムへの接近という側面を持っていく。未来派は当初から愛国的な参戦論を強く主張していたため、終戦とともにファシズムの勢力が次第に力を増していく中で、未来派も当然のようにファシストと協調することとなる。またファシズム体制に協力していくことが若い世代の間で未来派を続けるための一つの方法でもあったと考えられる。そして政治的な要素の強い未来派となっていった。特

にファシズムの体制が広まる1930年以降にそうした思想を持った未来派画家シーテやドットーリが現れ、彼らは当時のイタリアファシストの制服やゲートル、長靴姿を想像させるようなファシズム時代の男性の着こなしに関して取り組みデザインした。そこにもシーテの主張する肉体の開放、ダイナミックで非対称のライン、そしてドットーリの強調するダイナミックなフォルム、そして実用性を重視した部分は、未来派バッラが兼ねてから提案するところであった。

ファシストにとって制服が重要であったことは、1933年以後、教師はファシスト党の制服を着て授業をしなければならなくなる他、国民は幼少の頃から体制に組み込まれ、特に男子の場合、8歳から18歳までバリッラと呼ばれる組織に強制加入し軍事教練を受け、制服姿でパレードするなど、ファシズムにとって制服を着用することは、組織の存在、行進による示威などの上では不可欠であった。

1933年のIL MANIFESTO FUTURISTA DEL CAPPELO OTALIANOでは冒頭で直接バッラに触れている。もともとバッラの宣言を受けての発表であることが読み取れる。未来派は衣装から徐々にアクセサリへと対象を変化させていった。宣言では1914年の衣装宣言の中でバッラが主張したのと同じように過去主義の否定、すなわち黒や中立な色彩を使用することを非難し、未来派的機能を持った帽子を提案した。機能性、衛生、美の三つは未来派の理想であった。

続いてMANIFESTO FUTURISTA SULLA CRAVATTA OTALIANAが帽子に関する宣言を受けて発表された。布製ネクタイを否定し金属製で光沢があり、しかも軽い未来派ネクタイを提案した。また、この宣言の中で使われている言葉にファシズムの要素¹²⁾が強いこともわかる。

1933年という年は未来派がファッション分野で活動を拡大した時期であった。未来派が発表したファッションに関する宣言はこの他にもFUTURMANIFESTO CONTRO LE BARBE

VISIBILI E INVISIBILI (見える、見えないひげに対する未来派宣言)が1933年に作家フェルナンドチェルベッリ Fernando CERVELLI 署名により発表されている。その宣言の中でも見えるひげと見えないひげについて未来派的な言葉が羅列している¹³⁾ことから、ここでもファシズムの問題が読み取れる。

未来派の終焉はファシズムとの結びつきにあるともいわれているが、未来派はその後20世紀ヨーロッパ芸術の様々な展開の中に次第に解消されていくこととなる。

未来派とファッションについて調べてきたが、未来派の宣言の中に、このようなメンズファッションに関する宣言があることにとっても驚いた。そしてメンズファッションを変えることにこれだけのエネルギーを割いたことにも驚かされた。未来派はファシズムとの接近という側面を持っていたために言及を避ける風潮があったが、メンズファッションの宣言に関する限りは非常に明快で、メンズファッションの改革としては素晴らしいと感じる。決して否定的ではない。むしろ、現在の我々から見たら、非常に新しいことを言っているときえ思う。未来派は現代芸術のあらゆる可能性を先取りしていたことで、近年徐々に未来派の意義が再評価されつつある。それはファッションから見てもそうであろう。

最後に、本稿の執筆に際し懇切な御指導を賜った辻ますみ教授、そして貴重な御助言を頂いた若宮信晴教授、またイタリア語翻訳で全面的に御協力頂いた翻訳家佐藤公子氏に深く感謝申し上げます。

註

- 1) 詩人F. T. マリネッティが1909年パリの日刊紙『フィガロ』に「未来派宣言」を発表したことに始まる。これに呼応し、バッラ、カッラ、ルッソロ、セベリーニら翌年未来派に参加した。その思想は、第一次世界大戦前の1910年代初頭の不安に満ちたイタリアにおいて伝統文化や懐古的な趣味にまっこうから反対し、急速に進歩しつつあった

機械文明を積極的に芸術に取り入れ新しい美学を打ちたてた。マリネッティの「この世は新しい美によって輝きを増した。スピードの美である。今日の美は闘争の中のみにある。」という宣言文があるように、文化や政治に見られる過去の遺産と伝統的な価値を一切否定し、スピードと機械工学の戦争で象徴される現代のダイナミズム、そして攻撃的な愛国主義を貫いた。彼らは次々に宣言を発表することで主義主張を広めていった。その理念は建築、音楽、装飾美術、写真、映画、舞台美術などあらゆる芸術に展開し、同時代のヨーロッパ芸術界に大きな影響を与えた。

2) Crispolti, Enrico. *IL FUTURISMO E LA MODA*, Venezia, 1986

3) 二つの衣装宣言は、翌年1915年3月11日に表明された *Ricostruzione Futurista del l'universo* (宇宙の未来派的再構成) の中でバッラが提案した未来派メンズファッションのフォルムの再構成、色彩の再構成として一部引用された。この宣言は立体的造形の新しい実験を明確にするためのもので、数多くの未来派宣言の中でも極めて重要とされている。バッラ、そして未来派の若い新メンバーであったフォルチュナート・デペーロ Fortunato DEPERO が共同で署名した。宣言の内容は芸術に楽しい遊びの精神を生み、宇宙を再構成させるというものであった。再構成された宇宙とは、停滞した保守主義から人々を守り、現在行われている戦争よりもっと大きな戦争がもたらされることを望んだ。

4) 飛行絵画 *aeropittura* とも言う。マリネッティによる造語。1930年から40年にかけて未来派の画家たちによって描かれた絵画方式。飛行による視

覚的な効果を表現しようとした。

5) Crispolti, E., *op. cit.*, p. 131

6) *ibid.*, pp. 131-132

7) *ibid.*, pp. 135-136

8) *ibid.*, p. 141

9) イタリア語で *dirisa*。制服、ユニフォーム、軍服といった意味をもつ。ファッション関連では制服という日本語訳が一般的となっているため、ここでは制服という訳を用いている。

10) Crispolti, E., *op. cit.*, p. 144

11) *ibid.*, p. 145

12) ファシスト、ローマ進軍、ムッソリーニといった言葉を指す。

13) Crispolti, E., *op. cit.*, p. 145

参 考 文 献

1) キャロライン・ティズタル, アンジェロ・ボッツォーラ, 松田嘉子訳, 『未来派』, PARCO 出版, 1992年

2) 井関正昭, 『イタリアの近代美術』, 小沢書店, 1989年

3) 神部晴子, 『文化女子大学紀要』, 第31集, 2000年

図 版 出 典

1) Crispolti, E. *IL FUTURISMO E LA MODA*, Venezia, 1986

2) La Collezione Biagiotti Cigna. *BALLA*, Milano, 1996

3) 『現代の絵画 未来派の宣言』, 平凡社, 1975年